



純福音東京教会 札幌聖殿 祝福聖会&賛美礼拝



2023年2月19日(主日)~23日(木)、北海道宣教会を中心とした純福音東京教会の宣教団が北海道札幌市に訪れ、北海道宣教を行いました。この期間、札幌神学校の学生たちの伝道で初めて教会(札幌聖殿)に足を運んだ多数の初来者たちと共に、神様に祝福聖会や賛美礼拝をお捧げしました。(詳細は次頁参照)

目次

- P2 : 札幌聖殿祝福聖会&賛美礼拝
- P3 : ヤン・スンホ牧師 新年祝福聖会
- P4 : 担任牧師コラム「人生のユーラクロン」
- P4 : 純福音愛隣教会 祝福聖会


告知

2023年、純福音東京教会が神様から頂いた新規目標である、**子ども食堂・文化教室**(仮称)と**野外食堂**(仮称)を開きます。そのための祈り会が隔週で行われています。

祈り会 : 第1・第3土曜日 11時より大聖殿で毎月開催

発行 || 純福音東京教会
 編集 || 文書宣教会
 所在地 || 新宿区歌舞伎町2-2-19
 電話 || 03-3232-0667
 FAX || 03-3232-0729
 WEB || www.fgtc.jp



純福音東京教会の
 ホームページはこちら 
 (ホームページからも新聞が見られます。)

<https://www.fgtc.jp>



北海道宣教 2023年2月19日(主日)~23日(木) 札幌聖殿祝福聖会 & 賛美礼拝

2023年2月19日(主日) 札幌聖殿祝福聖会 初日

また預言者エリシャの時代に、イスラエルには多くのらい病人がいたのに、そのうちのひとりもきよめられないで、ただシリアのナアマンだけがきよめられた。
— ルカの福音書 4:27 —

2月19日(主日)、北海道に到着した宣教団は札幌聖殿を訪れ、志垣重政担任牧師が導く祝福聖会をお捧げし、礼拝で宣教活動を開始しました。志垣重政牧師は、「七度目の正直」という主題でメッセージを取り次ぎ、ナアマンに現れた癒しの奇跡のエピソードから、謙遜な心と悔い改めの重要性を改めて強調しました。そして、奇跡の背景には、周囲の人間の働きと進言がなければならなかったことから、信仰生活において、いかに信仰の仲間の働きが大切であることを解き明かし、聖徒の信仰生活を力強く励まし、

動機付けを行いました。

礼拝の後、任命式が行われ、札幌聖殿のジョン・ジエド聖徒とハン・ギジン聖徒が執事として任命されました。



祝福聖会の様子



ジョン・ジエド執事



ハン・ギジン執事

2023年2月22日(水) 札幌聖殿祝福聖会 2日目

話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。そしてそのとおりにしたところ、おびたしい魚の群れがはいて、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいた仲間に、加勢に来るよう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。
— ルカの福音書 5:4~7 —

2月22日(水)、札幌聖殿の聖徒達と共に食事を通じて交わりを行った後、聖会が開かれました。

初日に続いて聖会を導いた志垣重政牧師は、「お言葉ですから」という主題でメッセージを取り次ぎ、ペテロに現わされた奇跡から、四次元の靈性について解説をしました。イエス様の御言葉を聞いて、肯定的な考えに変わると、夢を持つようになり、夢の成就を確信し、唇で告白して実践することによって、夢が成し遂げられる奇跡が起こること、そして、言葉は大きな力を持っていることを述べ伝えました。

そして、私たち聖徒が、ペテロのように人生の船にイエス様を招き入れ、四次元の靈性を体現し、各々のビジョンを成就させることができるように、祝福しました。



食事会



札幌聖殿の聖徒達



神学生の献金賛美

2023年2月23日(木) 札幌聖殿 賛美礼拝

2月23日(水)は、志垣重政担任牧師とSingersが導く賛美礼拝を捧げました。この賛美礼拝は、純福音東京教会の大聖殿への中継が行われ、札幌聖殿と本教会の聖徒が共に恵みの時間を分かち合いました。



ニューヨーク純福音連合教会 担任牧師

2023年1月4日～6日

ヤン・スンホ牧師・新年祝福聖会

純福音東京教会はニューヨーク純福音連合教会の担任牧師であるヤン・スンホ牧師をお招きし、2023年1月4(水)～6日(金)までの3日間、新年祝福聖会を開催し、神様に礼拝をお捧げしました。

聖会初日

さて、イエスはエリコにはいて、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人があった。— 中略 — イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家に来た。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである。 — ルカの福音書 19:1～10 —

1月4日(水)、ヤン・スンホ牧師は、「愛で包むだけで変わります」という主題でメッセージを取り次ぎ、物質至上主義であったザアカイがイエス様と出会ったことで、貧民を慈しみ、自身の財産を分かち合う愛の実践を誓うほどに、人格的な変化が起こった聖句から、クリスチャンがどのような信仰生活を送れば、変化(聖化)ができるのかを伝えました。

「イエス様が私達を受け入れてくださったように、私達がイエス様を受け容れたように、隣人の人格を受け容れ、成功も過ちも悲しみも喜びも包み、受け容れることができれば、自分自身が変わられていく。」と述べ伝えました。

そのために、まずは教会の隣人に関心を持ち、憐れむ心と祝福する心を表現し、神様中心として生きるストーリーを形成していける聖徒となることを、勧めました。



聖会2日目

そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。みんなの者におそれの念が生じ、多くの奇跡とするしとが、使徒たちによって、次々に行われた。— 中略 — そして主は、救われる者を日々仲間に加えて下さったのである。 — 使徒行伝 2:42～47 —

1月5日(木)、聖会2日目は「魂の痕跡が私達を活かします」という主題でメッセージが取り次がれ、聖霊の中での交わりについて解説されました。すなわち、「聖霊の中での交わりは、世の交わりとは異なり計算がなく、各々が受けた祝福を分かち合うことである」と伝えました。

そして、分かち合うために、まずは自身が祝福を受けなければならないことを指摘し、「神様は祈る者の側におり、礼拝を楽しむ人を祝福する」ことを悟らなければならないことを述べ伝えました。

2023年、礼拝が回復することで、神様の驚くべき働きで祝福を受けることを宣言し、純福音東京教会の聖徒が真の礼拝者となるように励まし、勇気づけました。

聖会最終日

わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。

— 中略 — 同じように、あなたがたも喜びなさい。

わたしと共に喜びなさい。

— ピリピ人への手紙 2:12～18 —

1月6日(金)聖会最終日、ヤン・スンホ牧師は「ただ行くことが能力です」という主題でメッセージを取り次ぎ、神様の御旨に従順するとは、どのようなことを解説しました。

「理由なく行くことが従順である。それが実践できる背景には神様への信頼がある。そして、強くして下さる神様の中で何事でもすることが出来る。その信仰を持つべきである。」と力強く述べ伝えました。

そして、純福音東京教会の聖徒が信仰を強く持ち、心の中心にいつも神様を迎え入れ、偉大な信仰者となるようにと、祝福しました。





志垣重政担任牧師コラム

『 人生のユーラクロン 』



みんなの者は、長いあいだ食事もしないでいたが、その時、パウロが彼らの中に立って言った、— 中略 — 舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』。だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている。われわれは、どこかの島に打ちあげられるに相違ない。
— 使徒行伝 27:21~26 —

苦難に会うと、狼狽し、座り込んでしまう人もいれば、パウロのように大胆に立ち向かい克服する人もいます。パウロはどのようにして人生の大きな嵐をしのいだのでしょうか。

パウロは眩しいくらいの活躍をしていましたが、エルサレムでユダヤ人たちに捕らえられ、ローマ軍に引き渡されます。パウロがカイザルの裁きを申請したため、ローマに連行されるのですが、ルキヤにある美しの港に停泊していたイタリア行き帆船アレキサンドリヤ号に乗り込むことになりました。手足は束縛されていても心は自由であったパウロが祈りを捧げたところ、冬の間に航海すれば、大きな危害が及ぶとの啓示を受け、百卒長コリアスに告げます。しかし、彼は船主と船員たちとの「問題なし」という提言を受け容れ、出航させます。船主は出航が延期になることによる損失を考え、船長たちは自分たちの航海技術を過信していたからです。はじめは順風満帆に思えたのですが、突然の強風（ユーラクロン）に遭い、船は自由を失ってしまいます。絶体絶命に陥ったのです。

人生のユーラクロンは、傲慢と貪欲が造り出すものであることを悟りましょう。人間は、理性・教養・人格・科学・文明を誇りながら、傲慢と貪欲により、誤った選択をしてしまうのです。

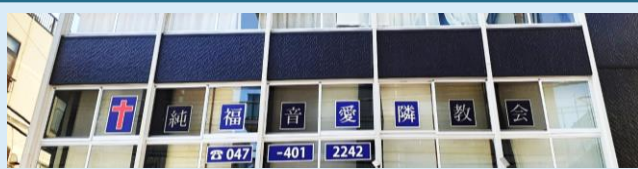
人類の歴史の中で、初めにユーラクロンを発生させたのは、アダムとエバです。エデンの園でユーラクロンが発生することはありませんでしたが、悪魔の誘惑

に陥って善悪を知る木の実を取って食べたことにより、嵐が発生したのです。神様の御座に座ろうとする傲慢であり、神様から所有権を奪おうとする貪欲そのものでした。神様は傲慢と貪欲をお許しになりません。悪魔が、傲慢と貪欲を利用してユーラクロンを発生させるのです。人生において、絶対に避けなければならないのは、傲慢と貪欲なのです。

それでは、パウロはどのようにしてユーラクロンを克服したのでしょうか。第一に、明確な所属感を持っていました。本文に「私が仕え、また拝んでいる神」とあるように、パウロは神様に属している者であり、ユーラクロンに属している者ではありませんでした。第二に、御言葉に対する絶対的な信仰を持っていました。パウロは、人間の知識や経験（船長や船主）に頼らず、神様の御言葉だけに頼りました。「パウロよ、恐れるな」という御言葉1つで十分だったのです。真理はたった一つであり、不変かつ普遍的なものです。天が崩れ、地が消え去ろうとも、神様の御言葉は一点一画も変わることはありません。神様を信頼しているということは、ユーラクロンに属していないことであり、傲慢と貪欲を、イエス様に出会った瞬間から捨ててきた者だったからです。人生を歩んでいけば、誰でもユーラクロンに出会います。その時、血だらけになって滅びるのか、もしくは嵐を回避して生き延びるのか、二者択一の前で神様に属していることを確認し、御言葉により頼んで勝利する皆さんでありますように、お祈りいたします。

2023. 1. 29(主日)

純福音愛隣教会 祝福聖会



まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

— マタイの福音書 6:33 —



1月29日(主日)14時、純福音東京教会の宣教団は、千葉県船橋市にある純福音愛隣教会を訪れ、祝福聖会を行いました。

講師として招かれた志垣重政担任牧師は、「全て添えて与えられるだろう」という主題で御言葉を取り次ぎました。「私たちは神様を受け容れたときから、神様の子女であり、神様は子が必要とする一切をご存知である。そして、私たちを育て、イエスキリストに似ていき、天国に案内していく計画を既に立てておられる。だからこそ、憂いは持たず、信仰を持ちなさい」と述べ伝え、同教会の聖徒を祝福しました。

純福音日本総会の一員である同教会が、ますますリバイバルし、より一層力強く、福音を述べ伝えていく働きが為せるようにイエス・キリストの皆により、お祈りいたします。